

南陽地域は こうして誕生したんです



南陽の田んぼアートはこうやってできる！

南陽地域のあらまし

南陽地域は、今から 350 年ほど前までは、木曽川、庄内川の二大河川にはさまれた河口にあり、一面見渡す限りの海原でありました。しかし、長い歳月の間に両河川によって運ばれた土砂の堆積により浅瀬となっていたものを、江戸時代の 182 年のうちに次々と干拓を行い、現在の南陽地区が誕生したのです。今でも、干拓当時の堤防が残されています。

新田開発に取り組んだ豪農

マップ内のコラムにも登場する干拓事業の第一歩を踏み出した愛知郡八田村の豪農、鬼頭勘兵衛景義は寛永8年(1631年)から明暦3年(1657年)に至る27年間、幾多の困難にもめげず新田開発や荒れた土地の開墾事業を精力的に行いました。



『生物多様性 2050 なごや戦略』より

ふじまえひがた 藤前干潟

藤前干潟ってどんなところ？

南陽地域の南東部にある藤前干潟は、魚やカニなど生き物がたくさん暮らすところで、平成 14 年 (2002 年) に、ラムサール条約に登録された国際的にも重要な湿地です。潮が最も引いた状態では驚きの東京ドーム 50 個分の広さになります。干潟は、いつでも見に行けば見られるというわけではありません。干潟が海面に現れるのには条件があります。藤前干潟の場合、潮位が名古屋港基準面で 70 cm 以下のときに干潟は現れます。

ハマシギが群れている様子



干潟移住の 1 時間前に行くようにするのがおすすめです！



ダイシャクシギ

提供：NPO法人藤前干潟を守る会

提供：NPO法人藤前干潟を守る会

参考文献：南陽のあゆみ
製作：南陽さんぽ実行委員会 発行：港区南陽支所
平成31年3月初版 4,000部発行 / 令和7年4月改訂

What's 田んぼアート？

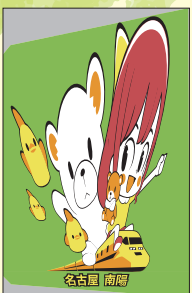
田んぼアートとは、葉の色の異なる古代米等を使って、広大な田んぼに絵を描く取り組みのことです。取り組んでいるのは名古屋市内でここ南陽地域だけ。そんな田んぼアートの制作過程をご紹介します！

① デザイン作成



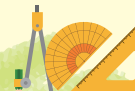
まずはデザイン作成から。観察台から遠いところは大きく、近いところは小さく描きます。これは、高さ約 7 m の観察台から眺めたときにアートがきれいに見えるように遠近法を利用しています。この遠近法は平成 27 年 (2015 年) から本格的に取り入れているんですよ！

遠近法を考慮して
作成されるデザイン図面



マップを水平にしてみました！

② 測量 (5 月上旬)



そして、田んぼアートの制作過程で、最も大変な作業が測量です！測量機を用いて、正確な位置に竹串を打ち、より忠実にアートが表現できるように下準備をします。

正確な測量を行うことが
美しい田んぼアートの
礎となっています。



③ 田植え (5 月上旬)

いよいよ田植えです。南陽地域では、まずアートの細かい部分を農家のみなさんが植え、それ以外の部分を一般の参加者が植えます。

一般参加者はなんと
約 300 名！
雨でもカッパを着て
田植えをします。



④ 観察会 (7 月上旬)

田植えから 2 か月ほどで、見ごろの時期を迎えます。南陽地域では見ごろの時期に「観察会」といって田んぼアートのお披露目会を行います。地元の野菜販売やお楽しみイベントなどみんなで盛り上がります！

観察台にのぼって
写真を撮るときれいです。

完成



⑤ 稲刈り (10 月中旬)

実りの秋、田んぼアートも黄色や茶色に変わり、参加者による稲刈りが行われます。後日、脱穀をして稲からモミをはずします。

稲を束ねるのが
結構大変！



⑥ 収穫祭 (12 月)

田んぼアートの最後のイベント収穫祭。田植えからの参加者や地元のみなさんで大盛り上がり！

港区 みどころ マップ

58か所の
スポット情報とコラムを
掲載しています！



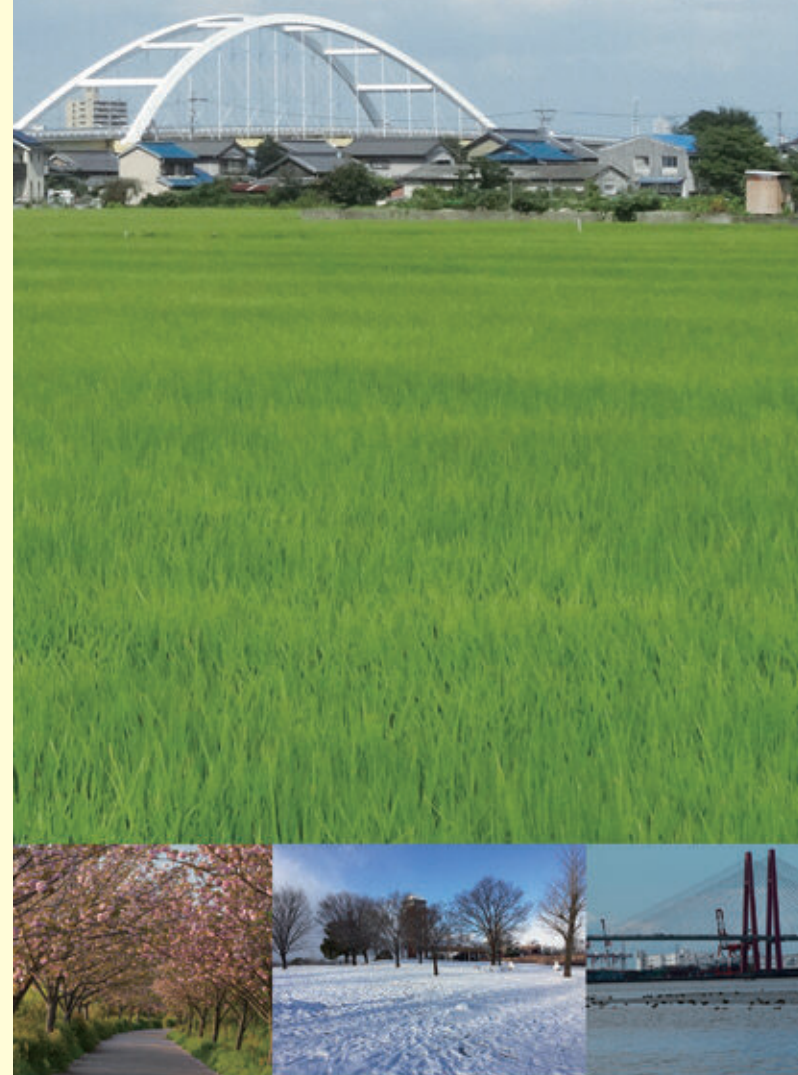
◀ダウンロードはこちらから



南陽のいいところ～つけた

南陽 さんぽ

南陽地域の
おさんぽマップ♪



南陽地域データ (南陽支所管内)

人口：30,392人

面積：14,387 km²

(令和6年10月1日現在)

Facebookにて
南陽地域の魅力を発信中！

